

令和6年度入学式式辞

本日、別府市長長野恭紘様、後援会長梅林秀伍様はじめ多くのご来賓をお迎えし、かくも盛大に入学式を挙行できますことは、まことに喜ばしい限りでございます。ご臨席賜りましたご来賓の皆さまには、心より厚くお礼を申し上げます。

新入学生の皆さん、そして、これまでお子様方を支えてこられた保護者の方々、ご入学まことにおめでとうございます。コロナ後の希望と挑戦に満ちたこの年に、これからの時代を切り開く皆さんを迎えることができましたことは、本学にとってこの上もない喜びです。私たちは皆さんが有意義な学園生活を送られるよう、全力を尽くしてサポートすることをお約束します。

さて、別府大学は1950年に開学し、今年で74年目を迎えます。そして4年遅れて開学した別府大学短期大学部は、今年70年の節目を迎えます。現在、大学は3学部6学科、短期大学部は2学科を擁し、教養・専門・免許資格等の教育を通して、多くの有為な人材を社会に送り出しています。

このような教育の基礎となる理念が、「真理は我らを自由にする」という建学の精神です。建学者佐藤義詮先生は、先の戦争で自由と真理がないがしろにされた歴史に鑑み、戦後、本学の門をたたいた若者にこの理念を説きました。この建学の精神は時代を超えた普遍性を有していますので、今日なお本学の教育を支える理念となっています。

ところで、ここ何年かの間に起こった大きな出来事、「コロナ禍」・「ウクライナやパレスチナの紛争」、あるいはまだ記憶に新しい「能登半島地震」などを、誰が予想したでしょうか。私たちはこうした予想しがたい現実を受け止め、生きていかなければなりません。このような時代にあって、私たちに求められるのは、真実を正確に見極め、将来を展望する洞察力と、信念に基づいて行動する逞しさです。新入生の皆さんには、建学の精神に裏打ちされた本学の教育のもとで、そ

のような力を培い、変化極まりないこれからの時代を生き抜いていただきたいと思います。

さて、大学での学びは、高校までの教科・科目による学習と異なり、学問分野ごとの授業で組み立てられています。学問分野は専門領域が多岐に分かれるため、ややもすると「大学での学びは専門的で難しい」といった印象をいただきがちです。しかし、その本質は、皆さんがこれまでに習得してきた知識や技能を順序立てて体系化し、これから社会で生きて行くために必要な「ものの考え方」や「ものの見方」を学ぶことにほかなりません。これまでの学習を踏まえて、新たな学びに躊躇することなく、意欲的に取り組んでください。

皆さんよくご存じの儒学の祖・孔子が、その言行録『論語』の中で、「君子は文をもって友と会し、友をもって仁を輔く」という言葉を挙げています。私はこの言葉を、「教養ある者は学問を通して友と交わり、また友との交わりを通して、人としての道を学ぶものである」と、理解しています。

大学の4年間あるいは短大の2年間は、勉学とキャンパスライフにもっぱら時を費やすことができる、人生唯一の機会です。真摯に学び、多くの友と交わり、これからの社会を支える人間力を養って下さい。皆さんは計り知れない可能性を秘めています。失敗を恐れず、その内なる可能性を大いに試し、伸ばしてください。私たちはそれを全力で支援します。4年後あるいは2年後、見違えるように成長した皆さんを目の当たりにすることを期待し、式辞といたします。

令和6年4月5日

別府大学・別府大学短期大学部学長 友永 植